

杉並区販売図書一覧

画像	書名・内容紹介	価格(税込)
	<p>『杉並にあった映画館』</p> <p>昭和30年代、映画全盛期といわれた時代には、杉並区に20館以上もの映画館がありました。本誌では、このころ区内にあった映画館を、かつて上映された映画のポスターや映画館のチラシなどから紹介しています。</p>	400円
	<p>『高円寺フォーク伝説』</p> <p>本書は、杉並区立郷土博物館が平成8年に行った特別展「高円寺フォーク伝説」の図録です。高円寺という街がなぜ、若者たちからフォーク・ロックのメッカと称されるのか、ライブハウス事情・ミュージシャン紹介と時代背景等から解説しています。</p>	600円
	<p>『江戸のごみ 東京のごみ』</p> <p>江戸時代にすでに見事な資源循環型の社会が形成されていたことから始まり、東京市の明治から昭和に至る塵芥量の推移、時代別のごみ質・収集量と方法の変化、処分方法等について写真を用い分かりやすく解説しています。そして、あの杉並ごみ戦争の記録を掲げている。国会図書館ほか多くの文献から貴重な資料を生かした価値ある記録であります。</p>	400円
	<p>『井伏鱒二と「荻窪風土記」の世界』</p> <p>生涯の大半を過ごした荻窪の地を舞台に、氏と数々の文士や趣味人、釣人、多くの作品の主題となった市井の人々とのエピソードを綴った「荻窪風土記」は井伏文学の源といえましょう。特筆すべきは、太宰治との初対面のときの様子です。そして、太宰の写真は印象に残ります。</p>	1,000円
	<p>『レンズの記憶 —杉並、あの時、あの場所—』</p> <p>「昭和20年代後半の写真にもかかわらず、つい昨日のこのように話がはずみます。一枚の写真が、お互いの懐かしい記憶をよびおこすのです。」と巻頭の言葉にあります。本書は、杉並区郷土博物館の写真展の展示図録です。この中に多くの子どもの写真がありますが、実に楽しげな笑顔を見せています。</p>	400円

	<p>『狂言装束と杉並能楽堂』</p> <p>狂言は明治維新まで能とともに「猿楽」とよばれていた。という狂言の歴史の解説とともに狂言装束と狂言面の写真を載せている。「黒地馬具模様肩衣」の衣装と「黒式尉」の狂言面の写真は必見と思います。本書は、郷土博物館の企画展の図録です。</p>	<p>400円</p>
	<p>『上井草球場の軌跡』</p> <p>熱烈な野球ファンでも上井草スポーツセンターが、かつてプロ野球や東京六大学の試合を行った本格球場であったことはあまり知られていないと思います。この球場をホームグラウンドにした東京セネターズや法政大学、そして軟式野球の歴史を当時の写真を多く用いながら詳しく解説しています。</p>	<p>400円</p>
	<p>『霊宝開帳と妙法寺の文化財展』</p> <p>「開帳は、寺社が日頃、厨子の中に安置するなどして秘蔵している神仏や霊宝を、一定の期間公開し、広く人々に拝観させる」とあります。葛飾北斎筆「魚師図」（白黒写真）や中国南宋時代の天目茶碗、二代広重による堀の内妙法寺等のカラー写真は見ごたえがあります。</p>	<p>1,000円</p>
	<p>『杉並区総合計画 杉並区実行計画』</p> <p>本書は、東京オリンピック・パラリンピックの開催決定、保育需要の高まり等、区政を取り巻く環境の変化を踏まえ、『未来につなぐ区民福祉の充実』をコンセプトに各事業計画の改定をまとめたものです。</p>	<p>1,200円</p>
	<p>『東京都市計画図 (杉並区地域地区図)』</p> <p>本地図は平成31年3月現在の用途地域や都市計画施設などを1/10,000の地形図上に表したものです。発行は杉並区都市整備部市街地整備課です。</p>	<p>500円</p>